

【政界インタビュー】

根本 匠氏

自民党・前衆議院議員



ねもと・たくみ 1951年福島県出身。74年東大(経)卒、建設省入省。93年衆院初当選。厚生政務次官、内閣府副大臣、衆院経済産業委員長、内閣総理大臣補佐官(経済財政担当)、党少子化問題委員長、広報本部長、国会対策委副委員長、税制調査会幹事、政務調査会副会長等を歴任。衆院福島2区で当選5回、2009年衆院選で惜敗。10年、東北志士の会を結成。郡山市防災対策アドバイザー

放射能問題は「見えない津波」

財政・経済政策通で
もめる根本匠自民党前衆議院議員は原発事故を含めた東日本大震災被災地の復興へ提言を続けており「福島の復興なくして日本の復興はない。政治主導で放射能対策等をダイナミックに推進せよ」と強調する。(文中敬称略)

東日本大震災からの復興も活動できる運動場を作り、島の今の復興状況について、たいへん公團事業で要求して、どこか驚かされていますか。も残念ながら認められない。昨年はいくつか提案、津波の地域しか想定されていない。東日本大震災からの復旧・復興の災害による被害ですが、宮城、岩手は津波と地震が、福島は津波、地震と波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

政治主導で「福島の復興」を

典型的なのが復興交付金ですが、これには予算が1兆9千億円で、40の対象事業があげられています。ただ、活用しようと思っても限定的で、津波でやられた地域には適用されるが、それ以外の地域では適用されないというところがあるのです。低放射線地域、風評被害、子供達が遊べない地域に「放射能の影響を受けない地域」も人口が減っています。雨天でも雪が降ると、当では不十分です。もう一つ、本格復興に向けての考

政治主導で迅速に
放射能問題は「見えない津波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

政治主導で迅速に
放射能問題は「見えない津波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

政治主導で迅速に
放射能問題は「見えない津波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

政治主導で迅速に
放射能問題は「見えない津波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

政治主導で迅速に
放射能問題は「見えない津波」です。工場が出て行く、放射能問題は「見えない津波」です。空間放射線量を下げた

を育てていくのが4番目の復興策です。さらに第5には原発起因災害の完全な補償、6つ目には放射線量の数値の意義の明確化なども大事になります。そもそも各種数値の提示等、丁寧にわかりやすく説明する。これが最も大事なのが、政治主導による「ふくしまの本格復興」が求められます。具体的には復興交付金、取り崩し型基金など各種基金は使い勝手が悪く、制度的にも欠陥が目立ちます。被災地に寄り添った再構築が必要で、大前提として、東日本大震災と阪神淡路大震災の質的な違いを改めて整理する。本質的な問題は何かを明らかにし、今のメニューを大胆に柔軟に見直す、政策の想像力と創造力が必要で、復興住宅について提案

とが可能となります。